

地域医療連携だより

Vol.219

R3.9

長浜赤十字病院 地域医療連携課
〒526-8585 滋賀県長浜市宮前町14-7
TEL 0749-68-3314
FAX 0749-68-3315



地域医療支援病院・救命救急センター
地域周産期母子医療センター
地域災害医療センター
滋賀県地域がん診療連携支援病院
基幹原子力災害拠点病院



コロナ禍で退院支援業務に奮闘する

医療ソーシャルワーカーをご紹介します



●医療ソーシャルワーカーとは??

患者さんやご家族と初めてお会いしたときに「医療ソーシャルワーカー?」と、疑問符のついた表情にしばしば出くわします。昭和41年に当院に初めて医療ソーシャルワーカーが配置され、今日まで55年になりますが、未だ患者さんには耳馴染みのない役どころのようです。病院は医師、看護師はもとより、様々なメディカルスタッフが医師の指示のもと傷病の治療にあたっています。もちろん医療の専門家だけでなく、看護助手、調理師、事務、クリーンスタッフなど、様々な職員が総力をあげて患者さんの療養環境の質を高められるよう奮闘しています。そんな中で、傷病に伴って派生した、心理的、社会的な問題に対するご相談をお受けし、患者さんがより望ましい状態での社会復帰ができるよう、他の職員と連携しながら7名の医療ソーシャルワーカーが活動しています。



医療社会事業課長
谷口 周作

●地域包括ケアシステムにおける当院の医療ソーシャルワーカーの役割

世界一の長寿大国である日本は、2025年を目途に誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築から深化へと力を注いできました。そのなかで当院は、湖北地域の三次救急医療を担っていますが、治療中に表面化する高齢者の介護問題、後遺症への支援、虐待等人権にかかわる問題、近年の社会問題となっているヤングケアラー等青少年をめぐる問題など、医療のみでは解決しきれない社会的な問題も持ち込まれます。こんな場合には治療と並行してできるだけ早期に患者さんの社会的環境のアセスメントを行います。そして院内外の多職種や関係機関と連携をとりながら、それぞれの患者さんの意思決定を支援し、現実的な解決へと繋がります。つまり日常のソーシャルワーク業務が、私たちが担う地域包括ケアシステムの実践だと考えています。しかしこれは今に始まったことではなく、当院の歴代の医療ソーシャルワーカーが実践し、築いてきたソーシャルワークです。日々、様々な患者さんとお会いする度に、医療機関の中で社会福祉を実践する専門職としての責務を実感しています。

●日常の業務内容

例えば、急性期治療が一段落し、主治医から退院許可が出された場合も、その時点ですべての治療が完了したわけではありません。その後もその方にふさわしい療養環境が整うよう回復期や慢性期の医療機関や、介護保険施設等とシームレスな連携をとります。また、在宅療養を希望される場合には、当院の退院調整看護師とともに、地域の開業医の先生方や行政、居宅介護支援事業所や相談支援事業所と連携し適切な在宅医療、介護、福祉サービスが利用出来るよう調整します。これらは外来通院中のケースも同様です。



医療社会事業課

●私たちが望んでいること

病院はその役割からも医療を中心に考えがちですが、すべての患者さんにはそれぞれの生活があり、その途中に病気や怪我で一時的に医療機関を利用させていただいている、いわば人生の通過点です。難しいこととは思いますが、少しでも患者さんが必要な治療を受けながらも充実感のある生活（人生）を送っていただきたいと思います。

最後になりますが、地域の先生方や関係機関の皆さん、日々患者さんや地域のためにご尽力頂き有り難うございます。当院にご紹介いただく患者さんが、生活や介護に関する課題を抱えていらっしゃる場合はお気軽に医療ソーシャルワーカーにもお声かけ下さい。地域の皆さんとともに、患者さんのwell-beingを目指したいと考えています。

◆◆ 研修報告 ◆◆

原子力災害医療基礎Web研修 を開催しました

社会課 高山 大志

令和3年7月3日(土)、滋賀県内の被ばく傷病者等に対応する医療従事者の育成を目的として、原子力災害医療基礎Web研修会を当院にて開催しました。原子力災害医療に関する研修は令和3年4月より被ばく医療研修認定委員会により体系化されており、研修の認定を受けて実施しました。滋賀県の原子力災害拠点病院の職員とその他の希望者を対象に、大津赤十字病院、滋賀医科大学医学部附属病院や滋賀県の職員など30名の方に参加いただきました。講師についても当院の職員だけでなく、大津赤十字病院の医師や診療放射線技師、滋賀県防災危機管理局原子力防災室の担当者をお招きし、講義に当たっていただきました。

原子力災害医療という分野は医療者でもなかなか携わることがないため、その言葉だけで敬遠してしまいがちかもしれませんが、この研修は基礎である放射線について学ぶことから始まります。実際には、どのようにして被ばくするのか、それを避けるためにはどうすれば良いか、また実際に被ばくした場合の影響と対策について正しく知っていただく内容となっています。はじめてのWeb研修でしたが、参加者のアンケートでは、「Web開催で十分に学べると感じた。」や「講習前よりも知識を増やすことができ、充実した研修でした。」といった評価をいただきました。

多くの方に受講していただき、正しい知識を持って万が一に備えていただけるよう今後は第2回の原子力災害医療基礎研修や派遣チーム研修に取り組んでいきたいと思っております。



(会場の様子 (Web講義中))

地域医療連携研修会

「精神しょうがいを持つ方とのコミュニケーション」～良いとこ探しの視点から～

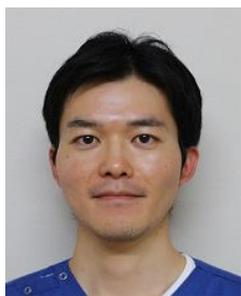
講師：長浜赤十字病院 精神科認定看護師 吉田 麻美氏 (8月28日開催)

標記の研修会をオンラインにて開催しました。参加者からは以下のような感想をいただきました。

- ・普段関わっている統合失調症の方を思いながら聞かせていただきました。今回学んだことを考えながら、これからは関わっていきたくて思いました。
- ・精神に関する研修は全体的に少ないので大変助かります。今後も参加したいと思っております。
- ・現在、関わっている利用者さんに接するてがかりとなりました。ありがとうございました。
- ・リカバリー、ストレングスの視点についてよく分かりました。精神のしょうがいをもつ方に対してだけでなく、広く生かせる考え方、方法だと思えました。

今後も地域の皆様を対象とした研修会を予定しております。ご参加をお待ちしております。

◆◆ 新任医師よりご挨拶 ◆◆



産婦人科
鈴木 直宏

令和3年8月より産婦人科医として長浜赤十字病院に赴任いたしました鈴木直宏と申します。静岡県立総合病院で初期・後期研修を終え、京都大学医学部附属病院、京都医療センターで勤務をし、今年で医師8年目になります。これまで周産期、婦人科疾患、不妊治療、腹腔鏡やロボット手術などの低侵襲手術などに携わってきました。

これまで培ってきた経験を活かし、湖北地域の患者様のお役に立てるよう日々精進して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

◆◆ 産科・婦人科より (お願い) ◆◆

新型コロナウイルス感染症患者の増加に伴い、現在当院では通常の前定入院や手術の延期等の対応をさせていただいております。婦人科におきましては、緊急性を伴わない待機可能な良性の疾患に対しては、事態が収束に向かうまで、ご紹介の受け入れを制限させていただきます。

なお、緊急性のあるものや妊婦の受け入れについては通常通りお受けしますので、今後ともご紹介をよろしくお願いいたします。

